

第 1 1 回 環境法政策学会

Japan Association for Environmental Law and Policy

2007年6月10日（日）上智大学（東京都千代田区紀尾井町7-1）

プログラム

9:30～12:00 分科会<個別報告> **(2号館)** <報告20分、コメント5分、質疑応答5分>

第一分科会 2階210教室
 第二分科会 2階208教室
 第三分科会 2階203教室
 第四分科会 2階207教室
 第五分科会 2階203-a教室

12:00～13:00 理事会 **(2号館-13階1315室 (法学部会議室))**

13:00～13:15 会員総会 **(10号館-講堂)**

シンポジウム「ポスト2012年の将来枠組みの形成に向けて
 -環境法の基本原則を踏まえて-

(10号館-講堂)

13:20～13:30 <あいさつ> 上智大学学長 石澤良昭

13:30～15:10 <第1部 報告>

15:10～15:30 休憩

15:30～17:30 <第2部 パネルディスカッション>

[注意事項とお知らせ]

- 1 分科会とシンポジウムの詳細は、裏面を参照ください。
- 2 参加者は、必ず受付簿にお名前とご所属をご記入願います。
- 3 開催校への質問等は、下記宛にお願いします。
 * F A X : 03-3238-3681 (上智大学 法学部内 環境法政策学会実行委員会宛明記)
 * メール : kankyouseisaku@hotmail.co.jp
 * アクセス : http://www.sophia.ac.jp/J/sogo.nsf/Content/access_yotsuyaで参照可能。
- 4 懇親会は、前日開催の環境三学会合同シンポジウム（弁護士会館2階クレオ）終了後に行うため、6月10日（日）は開催しません。

<環境三学会合同シンポジウム>

日 時 : 2007年6月9日(土) 13:30～17:30 懇親会 18:00～

場 所 : 弁護士会館2階クレオ(東京都千代田区霞ヶ関1-1-3)

テーマ : 森林保全と持続可能な管理 ※詳細は、同封パンフをご覧ください

環境法政策学会 第11回学術大会プログラム

《参加者等一部が変更になる可能性があります。》

【分科会】

第一分科会 ポスト2012年の将来枠組みと環境法の基本原則

〔2号館2階 210教室 司会者：磯崎博司（明治学院大学）／

コメンテーター：高村ゆかり（龍谷大学）・大塚直（早稲田大学）〕

- ①汚染者負担原則〔奥 真美（首都大学東京）〕
- ②共通だが差異ある責任原則〔遠井朗子（酪農学園大学）〕
- ③衡平の原則（世代間及び世代内）〔鶴田 順（海上保安大学校）〕
- ④持続可能な発展原則〔西村智朗（立命館大学）〕
- ⑤予防原則〔堀口健夫（北海道大学）〕

第二分科会 国際温暖化〔2号館2階 208教室 司会者：柳下正治（上智大学）〕

- ①「モンテリオール」の3つのプロセスと京都議定書の改正について
〔報告者：木村ひとみ（地球環境戦略研究機関）／コメンテーター：一之瀬高博（獨協大学）〕（以下同様）
- ②ポスト京都議定書枠組みにおける国境税調整ルール策定の必要性
〔関根豪政（慶応義塾大学大学院）／加藤峰夫（横浜国立大学）〕
- ③ポスト京都議定書の枠組みに関する提案
—プロセスベースの義務づけの可能性について—
〔倉阪秀史（千葉大学）／寺西俊一（一橋大学）〕
- ④京都議定書目標達成計画をめざした気候政策における環境教育の役割について
—ドイツの事例を基にした考察—
〔太田絵里（上智大学大学院）／下村英嗣（広島修道大学）〕
- ⑤欧州における温室効果ガス（GHG）排出量取引制度の発展と今後の課題
〔小松 潔（ナットソースジャパン）／久保田 泉（国立環境研究所）〕

第三分科会 自然・景観〔2号館2階 203教室 司会者：畠山武道（上智大学）〕

- ①生物多様性に対する企業の社会的責任（CSR）
—欧米企業との比較による日本企業の取り組みの現状と課題—
〔宮崎正浩（跡見学園女子大学）／竹原正篤（マイクロソフト）〕
- ②沖縄やんばるにおける開発と自然破壊～ヤンバルクイナを絶滅に追いやる真因は何か
〔関根孝道（関西学院大学・弁護士）／畠山武道（上智大学）〕
- ③都市緑化をめぐる課題〔磯田尚子（元滋賀県立大学）／大久保規子（大阪大学）〕

④自然保護に係る条約の履行確保について
 一条約における法原則・法概念・理念・措置と国内法への受容の観点から—
 [中村有利子（龍谷大学）／井上秀典（明星大学）]

⑤モンゴルの土地法制改革と牧地保全の課題
 [加藤久和（名古屋大学）／奥田進一（拓殖大学）]

第四分科会 国際法・外国法 [2号館2階 207教室 司会者：西井正弘（京都大学）]

①英国における環境税—導入の成果と課題—
 [片山直子（兵庫県立大学）／朝賀広伸（沖縄大学）]

②中国の環境影響評価制度における公衆参加と環境利益の保護
 [北川秀樹（龍谷大学）／桑原勇進（上智大学）]

③国際環境法の基本原則は、今後どの程度実効的か—「予防原則」の役割と限界—
 [池島大策（早稲田大学）／岡松暁子（尚美学園大学）]

④オース条約遵守委員会の活動—環境条約の遵守をめぐる新たな動向—
 [岩田成恭（名古屋大学大学院）／石橋可奈美（東京外国語大学）]

⑤事前手続きを巡る国際環境紛争の処理—「ダニューブ・デルタ事件」を題材に
 [児矢野マリ（静岡県立大学）／柴田明穂（神戸大学）]

第五分科会 リサイクル・化学物質・国内温暖化 [2号館2階 203-a教室 司会者：柳憲一郎（明治大学）]

①発生抑制と製品責任・拡大生産者責任の提案
 一廃棄物・リサイクル—体化法施策の提案の観点から—
 [戸田博之（神戸大学法政策研究会）／土居正典（鹿児島大学）]

②廃電気・電子機器リサイクルに関する法制度上の課題と今後の展望について
 一日・独りサイクル法の比較検討を通じて—
 [小清水宏如（環境政策ネットワーク）／織 朱實（関東学院大学）]

③地方自治体の温暖化防止対策をめぐる政策過程に関する考察
 一長野県「地球温暖化防止県民計画」と「地球温暖化対策条例」を題材に—
 [青木一益（富山大学）／藤田八暉（久留米大学）]

④地方自治体における新エネルギー・システム“Microgrid”の導入策に関する考察
 一構造改革特区の活用による地球温暖化防止策の可能性と限界を中心に—
 [元木悠子（慶応義塾大学大学院）・青木一益（富山大学）／荻原 朗（地球環境戦略研究機関）]

⑤化学物質審査規制法：公布時の意義と米国TSCA,EU REACHとの比較および今後の課題
 [大島輝夫（化学品安全管理研究所）／柳 憲一郎（明治大学）]

【シンポジウム】 (10号館-講堂)

【ポスト2012年の将来枠組みの形成に向けて-環境法の基本原則を踏まえて-】

☆第1部 報告☆ 司会：奥 真美（首都大学東京）、下村英嗣（広島修道大学）

13:30～13:50 将来枠組みをめぐる問題の全体像：磯崎博司（明治学院大学）

13:50～14:10 国連気候変動枠組み条約その他の環境法における基本原則の分析：高村ゆかり（龍谷大学）

14:10～14:25 市場メカニズムの利用と温暖化対策：水野勇史（IGES）

14:25～14:40 将来枠組に関する諸提案の分析：久保田 泉（国立環境研究所）

14:40～15:00 環境法の基本原則を基礎とした将来枠組に関する提案：大塚 直（早稲田大学）

15:00～15:10 コメント：浅野直人（福岡大学）・淡路 剛久（早稲田大学）

15:10～15:30 -----休憩（質問票回収）-----

☆ 第2部パネルディスカッション☆ 司会：浅野直人（福岡大学）・井上秀典（明星大学）

15:30～17:30

パネリスト：①梶原成元（環境省）、②山田健司（新日鐵）、③早川光俊（CASA・弁護士）、④磯崎博司、
⑤大塚 直、⑥高村ゆかり